

イベントレポート 『2009 GT 耐久東海シリーズ 第4戦』

開催日 2009年10月18日(日) 13:00 決勝スタート

決勝時間 :3時間

天候 晴れ

最高気温 23.2 (15時)

場所 スパ西浦モーターパーク

エントリー台数 30台

2009年10月18日(日)愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにおいて、2009K耐久/GT耐久東海シリーズ第4戦が行われた。GT耐久としては過去最多となる30台が集まり、熱い戦いを繰り広げた。

前日夜まで雨が続き天候が心配されたが、当日は見事な秋晴れとなった。早朝には一部ウエット路面箇所が残っていたが、GT耐久が始まる正午過ぎには完全なドライ。過ごしやすい気温も相まって、絶好のレース日和となった。

シリーズは全5戦となっているが、ラストの第5戦は上位成績チームから順に参加権が得られる選抜戦。選抜戦出場の権利を懸けても熱い戦いが繰り広げられた。



2Cクラス(1001cc～1500ccのNA車と、1200cc以下のターボ車 クローズドクラス)

今回は6台のエントリーとなったこのクラス。第3戦まで勝者が毎回変わる激戦でシリーズポイント争いも非常に混沌としている。

そこに来て、今年はこちらまで参戦していなかった昨年の覇者 No.5「オートリメッサ社用車スイフト」が久々にエントリー。今回の勝者は果たしてどのチームになるのか!?

予選

予選1位となったのは、第2戦の勝者 No.35「エスエイチアールシビック」で、タイムは1'03.958。そこからわずか0.069秒差の2位には前回の覇者 No.3「メタルクラフトRTスターレット」が付ける。

3位は開幕戦の勝者でありシリーズトップをいく No.13「MMS 藤井ケン岸本RSカルタス」が、1'04.516のタイムで入る。

と、上位3チームはここまでの優勝チームが占める形になる。

久々に参加の昨年王者 No.5「オートリメッサ社用車スイフト」は予選4位ながら1'04.890で上位陣をピタリとマーク。

以下5位に No.31「東海YEG自動車クラブシティ」、6位に No.108「丸和 Racingスターレット」と続く。

序盤

60分を経過した時点でのトップは、No.3「メタルクラフトRTスターレット」。43Lapの周回は総合でも2位の成績。続く2位も同一ラップで、No.35「エスエイチアールシビック」がぴたりとマーク。



3位はNo.13「MMS藤井ケン岸本RSカルタス」で1Lap遅れの42周。ここまで予選上位3台が予選そのままの勢いを見せつける。
以下4位にNo.108「丸和Racingスターレット」、5位にNo.5「オートリメッサ社用車スイフト」、6位にNo.31「東海YEG自動車クラブシティ」と続く。

中盤

120分経過時点、トップはなおもNo.3「メタルクラフトRTスターレット」が付け、90周を周回。そこから1周遅れの2位にはNo.13「MMS藤井ケン岸本RSカルタス」が浮上してくる。

3位にはNo.5「オートリメッサ社用車スイフト」が86周で付け、4位のNo.35「エスエイチアールシビック」は85周、5位のNo.108「丸和レーシングEP82」は84周と僅差の争いが続く。

6位のNo.31「東海YEG自動車クラブシティ」は81Lapと表彰台を狙うにはやや苦しい展開か。

上位2チームが頭一つリードしたように見えるが、義務ピットの消化回数の差もあるため、最終的な結果はまだまだ見えてこない。

最終結果

最終的にトップでチェッカーを受けたのは、No.5「オートリメッサ社用車スイフト」で121周をLap。義務ピットイン中に赤旗が出る幸運も重なり、運も味方に付けての優勝となった。

続く2位から4位までは120Lapの同一周回という僅差の結果。その僅差の争いを制しての2位になったのはNo.13「MMS藤井ケン岸本RSカルタス」。

そこから15秒遅れの3位にはNo.3「メタルクラフトRTスターレット」が入り、さらに1秒遅れの4位にはNo.35「エスエイチアールシビック」が入った。
以下、5位No.108「丸和レーシングEP82」、6位No.31「東海YEG自動車クラブシティ」という結果となった。

この結果、シリーズ優勝を狙えるのは上位3チームに絞られる形となった。現在シリーズ1位で62ポイントのNo.13「MMS藤井ケン岸本RSカルタス」が優位ではあるが、2位で56ポイントのNo.3「メタルクラフトRTスターレット」と、3位で55ポイントのNo.35「エスエイチアールシビック」にもまだまだチャンスは残っている。

選抜戦は6時間の長丁場。上位チームの実力はほぼ横一線なので、いかにミス無く乗り切れるかが、勝負の分かれ目となりそうである。



3Cクラス(1501cc～2000ccのNA車と、1201cc～1500ccのターボ車 クローズドクラス)

今回、過去最多となる13台のエントリーとなった3Cクラス。このクラスは車種が多様なのも特徴の一つ。プジョー106、シビックフェリオなどが新規参加し、よりバラエティーに富んだ車種が揃った。

そんな3Cクラスであるが、開幕から優勝の座を一度も渡していないのが、No.110「アライメント浜松 MA6」のロードスターである。第4戦でNo.110が4連勝を飾るのか、はたまた連勝にストップをかけるチームは現れるのか！？

予選

予選1番手は3連勝中のNo.110「アライメント浜松 MA6」。タイムは1'04.486をマークし、4連勝に向けて好ポジションを確保する。

2位には今回初参加のNo.92「T-FACTORYシビック」が1'04.819のタイムで入る。

3位はこのクラス唯一のターボ車であるNo.28「アクセントBスターレット」でタイムは1'05.257をマーク。

また、4位と5位も初参加のチームが入り、今回初参加チームのレベルの高さを伺わせる。

4位のNo.106「グルッペD&Mプジョー106」は当シリーズでは珍しい輸入車ながら好ポジションを獲得。また5位のNo.11「StecAE-1ファジートレノ」も希少なマシンであるAE111。

以下、6位No.20「久興自動車マイマイMR2」、7位No.52「SWEET SIGNALパルサー」、8位No.80「ハガククリニックシンワサクソ」と続く。

序盤

第3戦まで常に表彰台に乗っているNo.81「ソーワ&フレンジシビック」が予選から調子が今ひとつであったが、フォーメーションスタートとなってもマシンがスタート出来ず、急きょ人力でピットに戻される。その後ピットスタートをしたものの、コースインして1周で再度マシンストップとなり、そのままリタイヤとなってしまう。

また、スタート後間もなくNo.80「ハガククリニックシンワサクソ」がピットイン。マシントラブルによりリタイヤとなり、序盤で早くも2台のマシンが姿を消すことになる。

そんな波乱の序盤であったが、その後はレースは順調に推移し、6分が経過した時点ではNo.110「アライメント浜松 MA6」がしっかりと首位をキープ。43周をラップして総合でも3位の好ポジション。

続く2位と3位はわずかに1周遅れで、No.20「久興自動車マイマイMR2」とNo.28「アクセントBスターレット」が追いかける。

そこからさらに1周遅れで4位No.11「StecAE-1ファジートレノ」と、5位No.92「T-FACTORYシビック」が続く。

以下6位No.52「SWEET SIGNALパルサー」、7位No.21「ZESTルプロスロードスター」、8位No.51「SKYレーシングD/Rシビック」と続く。



終盤

レースが2時間を経過したところでのトップは、依然 No.110「アライメント浜松 MA6」で90周を走行。

続く2位は2周遅れで No.28「アクセントBスターレット」が付け、3位はさらに2Lap 差があることを考えると、トップを狙えるのはこの2台に絞られた感が…。

3位には86Lapで No.11「StecAE - 1ファジートレノ」が位置し、続く4位と5位は85Lapの僅差で No.92「T - FACTORYシビック」と No.106「グルッペD & Mプジョー106」が追いかける。

6位 No.20「久興自動車マイマイMR2」と、7位 No.96「Team KTS制動屋トレノ」も84Lapの僅差で追いつき、3位争いは最後までわからない状況となる。

最終結果

終始トップを走っていた No.110「アライメント浜松 MA6」が見事なポールトゥーウインを飾った。周回数は120周で総合でも4位となる見事な結果であった。

2位は終始トップの背中を見ながら走った No.28「アクセントBスターレット」が118周の好記録で入る。

3位争いはやはり熾烈な結果…。何と3位から6位までが同一周回という接近戦。

そんな中3位争いを制したのは、No.52「SWEET SIGNALパルサー」で115周を走りきる。

3位から5秒遅れの4位は No.106「グルッペD & Mプジョー106」。

5位はさらに悔しく、4位から遅れることわずか1秒…。そんな5位には No.92「T - FACTORYシビック」が入る。

以下6位 No.11「StecAE - 1ファジートレノ」、7位 No.96「Team KTS制動屋トレノ」、8位 No.20 No.20「久興自動車マイマイMR2」と続いた。

開幕4連勝を飾った No.110「アライメント浜松MA6」は最終戦を待たずしてシリーズ優勝を確定した。一方シリーズ2位に付けていた No.81「ソーワフレミングシビック」はリタイヤによりノーポイントに終わったため、シリーズ2位を確定することは出来ず、さらに最終戦までにマシンが直るかという不安も残る…。

シリーズ3位にはここ2戦連続で2位を獲得した No.28「アクセントBスターレット」が急浮上。

しかし、シリーズ1位の No.110と、3位の No.28の2チームは、チーム事情により最終戦への欠席を表明。

この結果、現状シリーズ11位のチームまでが、最終戦次第ではシリーズ3位にまで浮上する可能性を秘めているという、下克上の状態となった。

3クラスの選抜戦出場枠は5台であるが、前述の通りに上位の2台が欠席するため、シリーズ6位以下のチームにも参加権が回ってくることになる。最終戦の権利を運よくGETして、一気にシリーズポイントUPをするチームは出てくるのか!?



30クラス(1501cc～2000ccのNA車と、1201cc～1500ccのターボ車 オープンクラス)

5台の初エントリーを加えて10台の参加となった30クラス。現在2連勝中のNo.83「URG WM CLNシビック」を中心にトップ争いが予想されるが、ニューエントリーのチームがどこまで絡んでくるのか。

予選

予選1番時計を叩き出したのは初参加のNo.18「T-BODYレラティブシビック」。タイムは1'01.997で総合でも1位となる。

2番手はシリーズポイントリーダーのNo.83「URG WM CLNシビック」で、トップから遅れることわずか0.3秒の1'02.305をマーク。

3番手も初参加となるNo.50「タイヤランド刈谷北DLレビン」でタイムは1'02.985。そこから遅れること僅か0.008秒というF1の予選並みの差で4位のNo.16「clubYPスターレット」が入る。

以下5位No.86「Run Craft86レビン」、6位No.19「YADOKARIシビック」と続く。

序盤

スタートから暫くの間、No.18「T-BODYレラティブシビック」とNo.83「URG WM CLNシビック」がスプリントレース並みの僅差の展開を続ける。またすぐ後方にはNo.50「タイヤランド刈谷北DLレビン」が付け、トップグループを3台で形勢する形となる。

60分を経過した時点では44Lapを周回したNo.83「URG WM CLNシビック」がトップに立つ。これを1Lap遅れでNo.18「T-BODYレラティブシビック」が追う。

さらに3位、4位も2位からわずか1周差。3位には依然No.50「タイヤランド刈谷北DLレビン」が追いつがる。4位には予選9番手からスタートのNo.75「シーワンKMTYスターレット」が怒涛の勢いで追い上げを見せる。

5位も4位からわずか1周の差で、No.16「clubYPスターレット」が付け、そこからさらに1周遅れでNo.93「SDC92今度は5バルブレビン」が続く。

終盤

2時間経過時点でもトップ2は92周の同一LAPでの争いを続ける。この時点での1位はNo.83「URG WM CLNシビック」で、2位にNo.18「T-BODYレラティブシビック」が追う展開。

また、3位と4位も同一の88Lapでの争い。3位にNo.50「タイヤランド刈谷北DLレビン」、4位にNo.75「シーワンKMTYスターレット」というオーダーは、60分経過時点と同様の順位。

少し差が開いての5位はNo.19「YADOKARIシビック」で83Lapを周回。1周差の6位にはNo.93「SDC92今度は5バルブレビン」が付ける。

最終結果

終始トップ争いを続けた2台であったが、最終的にトップでチェッカーを受けたのは、No.18「T-BODYレラティブシビック」であった。123周を走りきり、初参加ながら強豪を抑え、見事な優勝を飾った。

12秒差で惜しくも2位となったのはNo.83「URG WM CLNシビック」。3連勝とはならなかったが、今回の2位でシリーズ優勝を確実な



ものにした。

3位となったのはNo.50「タイヤランド刈谷北DLレビン」。こちらも初参加ながら見事な走りで表彰台をGETした。

4位には118周でNo.19「YADOKARIシビック」が、以下5位No.93「SDC92今度は5バルブレビン」、6位No.66「ぶじょー106XSi-R」と続いた。

この結果、シリーズポイント争いはNo.83「URG WM CLNシビック」が最終戦を待たずして優勝を確定した。

シリーズ2位以下はわずかな得点差の中に多くのチームがひしめいており、最終戦に出場出来たチームがどこまでポイントを伸ばせるかで、最終の結果が決まりそうである。

